

楼蘭・米乱・若羌の遺跡
——衛星写真と実地調査を踏まえて——

伊 藤 敏 雄 (大阪教育大学)
協力：故・相馬秀廣 (奈良女子大学)
于志勇 (新疆文物考古研究所)

1. 楼蘭の遺跡

(1) 楼蘭故城 (L A 遺址) …楼蘭(鄯善)の都? “~~流砂に埋れた王都~~” “風砂に削られた都市”

①楼蘭故城 (L A) の位置

若羌東北 220 km、^{コル}庫^ル勒^ラ東南 340 km、孔雀河干河床最近点南 16 km、羅布泊岸西 28 km
新 標 定 位 置 東経 89° 55′ 22″ 北緯 40° 29′ 55″

②楼蘭故城 (L A) の城壁とその構造

- ・約 330m の不整形な正方形の城壁 (東 333.5m、南 329m、西・北 327m)
- ・不均等な版築、間に紅柳・葦
- ・北壁に約 22m の欠口 (北門?)、南壁に約 13m の欠口 (南門?)、西壁に^{おうじょう}瓮城?
- ・南北軸が西北に傾き、北東風のため東西の城壁の保存状況が悪い

③楼蘭故城 (L A) 及びその周辺の水路と胡楊林

- ・水路：西北角—三間房背後—東南角
- ・胡楊の枯樹林：L A の西北～西南 2・3 km、東北

④楼蘭故城 (L A) 内の諸遺址

1) 仏塔 [LA・X] : 残高 10.4m

2) 仏塔南の建築址 [LA・I] …僧坊か?

3) 仏塔東の建築址 [LA・IX] : 糜(キビ)・裸大麦の種子堆積層…倉庫か?

4) 三間房(衙門) [LA・II] : 東西 12.5m、南北 8.5m、日干レンガ建築…西域長史官
周辺 (LA. II ~ VI) で漢文文書・カローシュティエー文書出土

5) 住居址 : 大宅院 [LA・IV; F4] 16×22m 朽木 1865±80 年前
小住居 [LA・VII; F2] 4.6×3.5、4.8×3.4m

(2) 楼蘭故城 (L A) 近辺の遺址…瞭望台 (LA.XI) : 日干レンガ建築

(3) 楼蘭故城（L A）周辺の諸遺址

① 小仏塔[F0]：故城の東北 4 km、残高約 6.28m、壁画の一部残存

② 烽燧台：故城の西北 5.6 km、台基 18.7m 残高 10.2m

③ L B 遺址[XB]：故城の西北 14.5Km 仏寺の遺址

④ 東北郊外の墓群

平台墓地[MA]：故城の東北約 4.8 km、七座発掘、陶器、銅鏡破片、鉄鏃、骨器など
木片 B.P.2040±90 年 前漢晩期～後漢早期、居民？

孤台墓地[LC;MB]：故城の東北 6.9 km、二座発掘、合葬墓、(MB1:D はモンゴロイド)
陶器、弓矢、漆器、五銖銭、金耳飾、絹織物(錦など)、毛織物、棉織物
朽木 B.P.1880±85 年 後漢時代、官員・屯戍将士？
cf. スタインは多数の錦とヘルメス像の毛織物発見

⑤ L E 城址：故城の東北約 24 km、東西約 122、南北約 137m、南北に欠口（城門）、
北部中央西よりに建築址(21.3×10.7m)の墻基
南北軸が南北方向（居延の漢代の K 710 城址や B J 2008 城址と同様）
規模も居延の K 710 城址や K 688 城址、B J 2008 城址と類似
→伊循都尉府の可能性（但し、2010 年の報告で、城壁の木材 230～300 年頃）

⑥ L F 遺址：L E の東北約 4.8 km、台地中央に墓地（ミイラ）
北部に不整形の城壁（西南に城門、城門両脇に房址<駱駝・馬の糞や柴草など>）

⑦ 彩棺墓・嬰兒墓(1998 年発見)：L E の西北約 4.8 km、東経 90° 07′ 北緯 40° 41′

⑧ 壁画墓等(2003 年発見)：L E の東北約 5 km

(4) 楼蘭故城（L A）西南の遺址

① L K 城址：東経 89° 40′ 52″ 北緯 40° 05′ 15″ L A の西南 49.6 km
東面 163m 南面 82m 西面 160m 北面 87.5m(81.5m) 李柏文書出圭
南北軸が西北に傾く

② L L 城址：L K の西北約 3 km 東面 71.5m 南面 61m 西面 76m 北面 49m
西南約 40m に L K に連なる古河床
南北軸が西北に傾く

③ L M 遺址：L K の西北約 8 km、住居址群

(5) 小河墓西北城址 (2008年発見)

小河墓の西北約 6.3km 東経 88° 36′ 58.25″ 北緯 40° 22′ 23.04″
約 220m 四方
南北軸が南北方向
2010年の報告で、城壁の木材 440～500年頃 (北魏時期)

2. 米欄の遺跡 … 伊循城? 鄯善期の仏教遺跡、吐蕃時期の城塞址

(1) 城塞址 (MI)

① 不規則四辺形の城塞址

- ・ 東・北壁約 73m、南壁約 61m、西壁約 51m、版築
- ・ 四角と四面に突出部 (南面が最大)

② 革製の鎧甲の一部や吐蕃文の木簡等

③ 吐蕃占領期 (8c.後半～9c.前半?) の城塞址

(2) 仏教遺跡

① MII (寺院址)

- ・ 第1層 (約 14×11m、高さ約 2.7m) の上に第2層 (高さ約 3.4m)
- ・ 第1層に龕と柱
 龕内に塑造仏立像、柱に浮彫風のペルセポリス風柱頭とインド風壺形柱礎
- ・ 第1層東側の甬道に塑造仏座像下部と仏頭

② MIII (仏塔址)

- ・ 直径約 2.7m の砲弾型仏塔、幅約 1.8m の回廊、約 9m 四方の壁
- ・ 回廊外壁下部に有翼天使像と花綱を簡略化した曲線、上部に仏伝図の一部
- ・ 1989年に有翼天使像新発見

③ MV (仏塔址)

- ・ 直径約 3.8m の砲弾型仏塔、幅約 2.1m の回廊、約 12m 四方の壁
- ・ 回廊外側に壁画
 上段…崩落
 中段…ヴィシュヴァンタラ太子本生図の一部
 下段…花綱と男女群像
- ・ 現在、基部のみ存在

④ MVI、VII、XIV (仏塔址)、MX (寺院址)

(4) 漢唐時期 (?) の灌漑水路跡

3. 若羌の遺跡 … 鄯善の都？

(1) 且尔乞都克（チャルティティック）故城（黄文弼 1983）

①黄文弼の調査

- ・ 外城：周長 720m、城壁幅 1.5m、残高 1 m。卵石積み。7世紀の石城鎮に相当。
- ・ 内城：基址周長 220m。土坯積み。幅 1.6～2m、残高 0.5m前後。
- ・ 西北角に残塔（9×9m、残高 3.15m、スタイン 8.6m 四方、残高 4.3m）。
- ・ 貝葉と紙の梵文仏典発見。4世紀前後（スタインは唐代）。

②孟凡人の扞泥城説 … 別々の城壁とし、土坯城を漢代以来の扞泥城とする。

③スタインの調査（Koyumal）… 外城・内城の区別なし。土坯の城壁、幅 2.4m、東壁 199m。

④2000年の調査見学 … 38° 58.70′ N、88° 10.30′ E。

(2) 孔路克阿坦（コンルクアダン、孔奥可汗城）遺址

①黄文弼の調査

- ・ 南北 84、東西 26.4mの範囲。周濠の直径約 90m。唐代。
- ・ 寺院址？（土坯残牆の残高 2.5m）とその西の残塔（5.8×5.8m、残高 1.8m未滿）。
- ・ 4世紀前後。

②黄小江の調査 … 戍堡址。C14 で 1915±75 年前。周濠の西北 30mに房屋遺址。

③スタインの調査（Bash-koyumal）… 南北 62.5mの半月状の圍壁と周濠

④1999・2000年の調査見学 … 38° 57.17′ N、88° 09.94′ E。半円状の周濠。

(3) 扞泥城遺址 … 県城の偏北、既に消失

(4) 土台遺址 … 県城の西北 3km、周長 180m、残高 10m前後、土坯

(5) 石頭城遺址 … 県城の西南 33km、海拔 2000mの山頂、山頂を穿ち石積みの城壁 2000年の調査見学時の測定値 38° 44.11′ N、88° 11.54′ E。